

Office MY Financial Planner

FPからのお便り

4月号

2008 vol.04

HEADLINE

- (1) 3月の個人投資家・家計に関する情報ヘッドライン
- (2) 今月の金利&商品&株価などの指標
- (3) 東京都中小企業景況から
- (4) 投資家への一言(流書本から要約・引用)
- (5) コラム～★FPも疑問なこと★～



本編は皆様の生活に影響すると思うニュースをピックアップし概要とコメントを記載しています。

年度替りの3月31日～4月1日の記事・情報は盛り沢山でした。このため、3月ピックアップでなく4月1日を主としてヘッドラインとします。

○ 個人投資家マネー情報ヘッドライン

☆ 日経平均 27.5%下落(日経朝刊 08.04.01 より)

●07年度5年ぶり ドル不安波及 円は20年ぶり18円上昇
上記記事が1面に掲載されています。3月31日の東証1部の株価が反落、日経平均株価も大幅反落したための数字です。2007年度の下落率は27.5%と日本経済がデフレで苦しんだ02年度(27.7%)に匹敵する大きさです。また、日本株の下げは世界でも突出しており、株式時価総額は3年ぶりの400兆円割れて393兆円です。為替市場では円相場が対ドルで18円も上昇して20年ぶりの上昇幅を記録しました。

⇒どちらも記録的な下げ相場と、円高と受け取れますが、直近10年の年間下げ幅でいえば2000年のほうが大きく、2001年もまた同じような下げでした。株式市場は数年に一度このような状況になることを念頭において投資してください。ちなみに、2003年は25%超、2005年は45%超の上げ相場でした。私は3月に個別株を2銘柄購入しました。

円相場の高騰は極めてリーズナブルです。野口悠紀夫氏が常に書かれているピックマック指数によれば80円程度が本来の価格かも知れません。なお、円高ではなくドル安です。

☆ 株安で2007年度の年金運用利回りが5年ぶりにマイナスになりました(日経朝刊 08.04.01 より)

⇒各年金運用団体は、須らく資産配分に国内外の株式を組み込んでいます。例えば、企業年金連合会は両資産で50%を超えています。また、国民年金と厚生年金を運用する独立法人年金管理運用はこれよりも少ないものの、20%近くを運用しています。長期投資はこれらの配分を壊すことなく、運用を継続して欲しいと願っています。独法の5年間の運用益は20兆円を超えています。心配は政治家がしゃしゃり出て、運用のスタイルを変えることです。民間運用団体との癒着や利権発生が予想されます。そして運用成果は全く保証できません。

○ 個人の生活に関する情報ヘッドライン

☆ 続々と値上げが発表・実施されています。

このところの報道で、あげられた主なものは。

小麦の政府売渡価格 30%アップの影響で、うどん、パン、ドーナツ等小麦粉を原料とするもの。牛乳とバターなどの乳製品。肉類の缶詰、フライドチキン。しょうゆ 10%アップ、サラダ油 10円/1。レジ袋も有料化。そして、ガスが85円/家、電気156円/家。

⇒景気後退の予測の中、食料品や生活必需品が続々と値上げされています。2月は消費者物価が1%上昇しました。

先月のお便り「スタグフレーションについて」を参考に落ち着いた対応をお願いします。此処での円高は輸入品の価格上昇を和らげるので助っ人です。

☆ 高期高齢者医療制度がスタートしました。

75歳以上の方1300万人を対象とする制度です。

75歳以上の方すべての人が6000円の保険料を負担する制度。今迄お子様の扶養に入っていた方も今後はこの保険に加入する必要があります(行政から保険証が送付されています)。今後は医療費の1割を自己負担します。

⇒医療費の支出増への対応です。現状のままの制度を継続した場合、現行の医療保険制度は破綻が予想されます。若者の負担を減らすためには止むを得ないと理解するのですが、厚生労働省や国土交通省を始めとする役人の無駄遣いを見ると複雑です。

☆ 不動産バブルの崩壊が迫っています

(週刊ダイヤモンド 08.03.29号より)

「地価暗転」と題して特集が組まれました。ここ数年続いた都心の高層マンション建設に伴う地価高騰が曲がり角(下落予測)にきたことが克明に書かれています。世界的な不動産バブル(ニューヨーク、ロンドン等)も崩壊が迫っています。また、住宅・マンションの市況も急変している状況が詳しく説明されていました。

⇒高値安定は期待できず、都心の一部を除きまたもや地価は下がりはじめました。また、住宅・マンションの在庫が積み上がっています。これから住居購入をお考えの方は慎重に物件の価値を検討下さい。

◆ 金利データ&商品市況

2008年4月2日作成

	当月	前月		
公定歩合	0.75 →	0.75		
短期プライムレート(都銀 最頻値)	1.875 →	1.875		
長期プライムレート(みずほコーポレート銀)	2.10 ↓	2.15		
＜主要国 政策金利＞				
米国FFレート(誘導目標値)	2.25 ↓	3.00		
EU/ECB主要政策金利	4.00 →	4.00		
◆貯蓄 *年平均利回り				
三菱東京UFJ銀行	普通預金	0.200 →	0.200	
	貯蓄預金(10万円以上)	0.230 →	0.230	
	スーパー定期預金(300万円未満)	1ヵ月	0.250 →	0.250
		1年	0.350 →	0.350
		3年	0.450 ↓	0.450
	外貨定期 1年	米ドル	0.780 ↓	1.100
2000米ドル相当額以上	ユーロ	2.980 ↑	2.690	
3万米ドル相当額未満	豪ドル	6.120 ↓	6.500	
ソニー銀行	普通預金	0.300 →	0.300	
	定期預金 300万円以上 1000万円未満	1ヶ月	0.506 ↓	0.530
		1年	0.806 ↓	1.015
		3年	0.663 ↓	0.814
	外貨定期 1年	米ドル	1.35563 ↓	2.005
	1万ドル～3万ドル未満	ユーロ	3.481 ↑	3.328
	豪ドル	6.5825 ↓	7.050	
ゆうちょ銀行	通常貯金	10万円以上	0.210 →	0.210
	定額貯金	3年以上	0.402 →	0.402
国債	個人向け国債(4月)	固定・5年	0.81 ↓	※0.94
		※3月募集 変動・10年	0.57 ↓	※0.68
	利付国債2年(267回)		0.60 ↑	0.56
	利付国債5年(70回3月発行)		0.80 ↓	0.86
◆ローン フラット35は金利に保証料相当分を含む				
(三菱東京UFJ銀行)	カードローン	無担保	11.5 →	11.5
		教育ローン 無担保	固定型	6.875 ↑
		変動型	4.875 →	4.875
	住宅ローン	変動型	2.875 →	2.875
		固定・5年	3.25 →	3.25
		固定・10年	3.70 →	3.70
	フラット35	保証型	2.99 ↓	3.07
		買取型	2.99 ↓	3.10
	フラット35(買取型)	21年以上	2.640～3.200%	
	※住宅金融支援機構 発表	20年以下	2.400～3.200%	

◆ 株価&商品&為替市況

◆商品市況		3月末		前月末	
田中	金小売価格 円/g	3,158	↓	3,459	・
貴金属HP	プラチナ小売価格	6,890	↓	7,623	・
◆金融商品指標		月末		前月	前年同月
株式	NYダウ	12,262.89	↓	12,266.39	12,354.00
	ナスダック	2,279.10	↑	2,271.48	2,421.00
	ドイツDAX	6,534.97	↓	6,748.13	*
	英国FT100種指数	5,702.10	↓	5,884.30	*
	日経225	12,525.54	↓	13,603.02	17,128.37
	東証1部時価総額	393.96	↓	431.55	556.46
	MSCI世界(ドル) ※3/27	1,443.70	↓	1,485.40	—
	東証1部株価利回り	1.77	↑	1.66	—
	S&P株価指数利回り 3/26	2.14	↑	2.07	—
	商品	国内金地金 3/27	3,036	↓	3,188
NY金		921.5	↓	975	ドル/オンス
NY原油		101.58	↓	101.84	ドル/バレル
シカゴとうもろこし		5.605	↑	5.16	ドル/ブッシュェル
ロイタージェフリーズCRB		394.54	↑	386.31	—
為替	対ドル 3/1	101.19	↓	103.8	117.28
	対ユーロ 3/1	159.69	↑	157.66	155.29
	対ポンド 3/1	204.11	↓	206.38	・
	対豪ドル 3/1	93.74	↓	96.73	・
金利	日本国債新発10年	1.275	↓	1.355	1.65
	米国10年国債	3.413	↓	3.51	4.64
	米国TB3ヶ月(%)	*		1.81	4.92
	ユーロ金利3ヶ月物%	*		*	*

◆MMF利回り比較			%	前月
MMF	野村	3月31日	0.529	0.521
	大和	3/25～3/31	0.554	0.517
	日興	3/26～4/01	0.511	0.472
外貨MMF	野村 4/1	米ドル	2.235	2.882
		ユーロ	3.490	3.465
		豪ドル	6.665	6.361
	大和 3/25～3/31	米ドル	2.132	2.476
		ユーロ	3.537	3.415
		豪ドル	6.760	6.360
	日興 3/26～4/1	米ドル	2.226	2.633
		ユーロ	3.550	3.524
		豪ドル	6.669	6.429

● 東京都中小企業の 2月 景況(平成20年3月調査)

業況:悪化に歯止めがかからず、4年半ぶりの低水準 見通し:1ポイント増加で、大幅悪化の前月とほぼ同水準

2月の都内中小企業の業況DIは前月に比べ1ポイント減少の▲41になりました。小幅ながら3ヶ月連続の悪化と歯止めが掛からず、4年半ぶりの低水準に落ち込みました。一方、前年同月比売上高DIは前月比4ポイント増加の▲39で、連続の大幅悪化から3ヶ月ぶりに改善しました。当月と比べた今後3ヶ月間の業況見通しDI(▲29)は、前月比1ポイント増加で大幅に悪化した前月とほぼ同水準でした。なかでも製造業の業況DIは前月比2ポイント減少の▲35と4ヶ月連続の悪化になっています。

⇒売上高はうるう年効果で若干改善しましたが、全てのポイントはマイナスです。都内の景況はザプライム問題による不透明感と、政治の混迷から、ますます不透明感を増しています。

投資家への一言(PanRolling 社刊 ベンジャミン・グレアム&ジェイソン・ツバイク著 増沢知美 新美美菜 塩野未佳訳 新「賢明なる投資家」 割安株の見つけ方とバリュート投資を成功させる方法 から要訳・引用)

「賢明なる投資家」は1949年に初版が出版されて以来版を重ね、60年近く経った今でも読み継がれている名著です。副題に有るように、パッシブ型投資の手法(インデックスで満足する)とは対極をなす、市場の非効率性に着目した投資方法です。しかしその中でも、以前に紹介した名著と同様の示唆もあり、随時それらを載せて参ります。

第9章投資ファンドへの投資 注解から

賢明な投資家はインデックスファンドが長期的には大半のファンドに勝つということを認識することである。・・・ 唯一、インデックスファンドには大きな欠点がある。それは退屈なことである。パーベキューパーティーの席で、国内トップの成績を誇るファンドをどうやって見つけたかを吹聴事など絶対にできないし、市場平均に勝ったと自慢できることもできない。・・・しかし、年月が経つにつれ、指数連動のコストアドバンテージが高まっていく。IDX-Fを毎月買い増ししながら20年以上保有していれば、大半のプロの投資家や個人投資家を同じようにアウトパフォームするのはほぼ間違いない。グレアムは晩年、ウォーレン・バフェットがそうしたように、個人投資家にとって最高の選択肢だといってインデックスファンドを賞賛している。

コラム～★FPも疑問なこと★～

外貨建て商品の保有について

今月もまた、年初来のサブプライム問題から引き起こされた、投資・運用、分散投資について述べさせていただきます。

このところ、オールアウトなどで、お客様から「円高なので、外貨預金を考えているが如何か」、「南アフリカランドの債券を購入したいが?」などのご質問が相次いでいます。この問題を考える際に、「通貨への投資」と「質への投資」、そして「商品の選択」の3つの要素があります。

● 通貨そのものの為替変動を調べ考えてみました。

メディアでの惹起やヘッドラインは「円高」と書かれていますが、内容をよく読むと「ドル安」です。少し前は「円の1弱」といわれていましたが、現在は米ドルの1弱、円の半弱状態でしょうか。

まず、年初に比べた現時点の円を機軸に置いた際のお他通貨のレベルを整理してみました。

☆ユーロは相変わらず強く、1強に近い状態です。価格は横ばいです。従いましてユーロに対しては「円安」です。

- 豪ドルも資源国の強みと高金利政策で円に対しては下げから上げに変化しています。これも「円安」
- ポンドは円に対して、安くなってきました。これは「円安の解消の初期段階」です。
- カナダドル、メキシコペソとシンガポールドルはドルにつれて安くなり、円安が解消されてきています。
- アジアの通貨ではバーツ、ルピアやルピーは大きく下げています。これも円安が解消されてきました。
- 南アフリカのランドはドルよりも急落しています。円高が進んでいる通貨の一つです。

☆米ドルに対しては一時95円をつけるなど、急激な円高が進みました。

年初に比べた観点で整理しましたが、円のレベルを考える際には、SDR(米ドル、英ポンド、ユーロ、円の加重平均)、購買力平価比較、ビッグマック指数(マクドナルドのビッグマックを買うのに必要な価格)などで考えた場合、1ドルは80円程度とされています。その観点では、まだまだ円安です。(参考日経新聞、読売新聞、野口悠紀雄コラム等)

上記の状況を見渡したときに、我々が持つ金融商品の原資産がどの通貨に属しているのかを考えると同時に、**通貨の分散の必要性を痛感**します。南アフリカのランド建債券を買われた方は大きな含み損を抱えてしまいました。もし、金利が高いということで、この商品に大きな比率で資産配分されていたら、損失は挽回ができないかも知れません。

通貨は最も効率的な市場と考えられています。効率的な市場では、**過去から現在に至るあらゆる要素が市場価格に反映されています**。様々な専門家・投資家の将来の予想も価格に反映されています。価格が下がるか上がるかは、市場に拘わる人々の知らない情報によって動きます(分かるのはインサイダーだけ)。従いまして予想は不可能です。

従いまして、**予め通貨や原資産を分散する必要があると考え、お客さまにお勧めするとともに自身も実行しています**。

● 資産配分の上で金融商品と考えた際には、預金+債券と株式、そして商品や不動産が考えられます。

「質への転換」と騒がれ、**債券価格は急騰し株式価格は急落しています**。とても分かりやすい分散効果です。過去の例では、何れ債券価格が低下し、株価が上昇します。従いまして、このような時期に株式を損切りで手放すと、反転があった際に、損失だけを抱えてしまうこととなります。

株価と商品の関係は少し様相が異なります。通常は株価と切り離され動きになります。従いまして、株と商品を保有する意味があります。しかし、本年年初からの様相は、商品(原油、石炭、レアメタル、金、とうもろこし、小麦等々)に関してはバブルになっています。何れ現在価格は崩落し、需給に応じた価格まで戻ると考えています。但しその時期を中てることができません。

不動産は世界中でバブルが弾けた、弾ける前段階になっており、日本のREIT価格も昨年の最高値に対し40%以上も下落しています。私は居住不動産を保有されている方のREIT購入は、資産を不動産に過剰配分しすぎるためお勧めしていませんでした。また、REITは商用・居住用の不動産を所有し、それらから賃貸料を回収する企業・信託のことで、従いまして、国債等の無リスク商品の利回りに、リスクプレミア大きくのせた利回りが期待できない場合は購入をお勧めできません。